

刈込池におけるメススジゲンゴロウの生息状況

澤田研太¹⁾・白石俊明¹⁾

¹⁾富山県 立山カルデラ砂防博物館

1. はじめに

刈込池(図1)は立山カルデラ内湯川谷の上流左岸の段丘上(標高1,620m)に位置する、長径128m、短径80m、最大水深10.5mの火口湖である(財団法人立山カルデラ砂防博物館、1994)。

刈込池はメススジゲンゴロウ *Acilius japonicus* Brinck の富山県における数少ない産地のひとつである(大野ほか、1994; 山口英夫・櫛田、1998)。メススジゲンゴロウは甲虫目ゲンゴロウ科に属する体長15~17 mmの水生甲虫で(佐藤・吉富、2018)(図2)、北海道および本州の中部以北に分布し(佐藤・吉富、2018)、富山県は分布の西限である(安池、2017)。富山県版レッドデータブックでは絶滅危惧Ⅱ類に選定されており、放魚が生存への脅威として指摘されている。(富山県生活環境文化部自然保護課、2012)。

刈込池が位置する立山カルデラ内は、一般車両の立入りが制限されており、人為的な影響を受けにくい場所である。また、食害を受けるため本種が生息するには同水域に魚類が生息しないことが望ましく、過去に行われた立山カルデラ自然環境基礎調査では、刈込池から魚類は確認されていない(田中・稲村、1994)。以上の理由より刈込池は、本種が生息するにあたっての良好な状況が維持されてきたと考えられる。しかし、近年の調査報告がないことに加えて、刈込池において魚影らしきものを見たという



図1. 刈込池 (調査当日撮影)

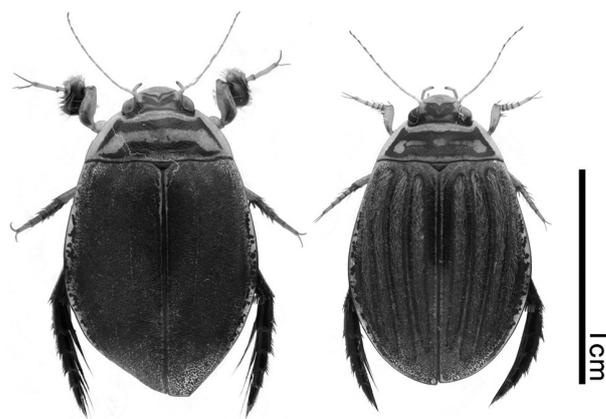


図2. メススジゲンゴロウ (左♂, 右♀)

聞き取り情報が得られた。もし、何らかの要因で魚類が生息し始めたとすれば、同地の生態系に大きく変化している可能性があるために現状の把握が必要である。

このような経緯から、刈込池においてメススジゲンゴロウの生息状況調査を行った。

2. 調査方法

2015年9月8日、11:15~12:15の60分間、2名が胴長を着用し、池を岸沿いに両側に分かれて歩きながらタモ網(幅40cm、網目4m、柄の長さ100cm、D型フレーム)で岸際の落葉など水中の堆積物を掬い採り、得られたメススジゲンゴロウを記録した。採集した個体は証拠標本とする個体を除き現地にて放した。

3. 結果及び考察

採集記録

メススジゲンゴロウ *Acilius japonicus* Brinck

31♂44♀、8-IX-2015、澤田・白石採集。(内3♂3♀カルデラ砂防博物館収蔵 登録標本TK-800-1、同800-2、同800-3、同800-4、同800-5、同800-6)

今回の調査ではメススジゲンゴロウ成虫75個体を確認した。同時にクロサンショウウオとモリアオガエルの幼生が多数確認でき、このことから、これ

らの捕食者となる魚類が生息している可能性は低いと考えられる。また、2017年にカルデラ内の池を対象に実施された魚類調査においても、刈込池から魚類は確認されていない(不破ほか、2019)。以上のことから、同地の生物相に大きな変化は出ておらず、現在もメススジゲンゴロウが生息するにあたっての良好な環境は維持されていると考えられる。

現在、刈込池付近には新たに工事用道路が建設されており、これまでよりも池へのアクセスが容易になると予想される。魚類、特にイワナ等の安易な放流を行わないよう注意が必要である。

4. 引用文献

- 不破光大・稲村 修・白石俊明・草間 啓、2019. 立山カルデラ内の池における淡水魚類. 魚津水族博物館年報、(28) : 23-29.
- 森 正人・北山 昭、2002. 改訂版 図説日本のゲンゴロウ、231pp. 文一総合出版.
- 大野 豊・北村征三郎・惣名 実・中川秀幸・根来尚、1994. 5動物(5)陸生・水生昆虫類. 富山県生活環境部自然保護課(編)立山カルデラ自然環境基礎調査報告書、pp.54-143. 富山県生活環境部自然保護課.
- 佐藤正孝・吉富博之、2018. コウチュウ目(鞘翅目). 川合禎次・谷田一三(編)日本産水生昆虫一科・属・種への検索(第二版)、pp.707-790. 東海大学出版部.
- 田中 晋・稲村 修、1994. 5動物(4)淡水魚類. 富山県生活環境部自然保護課(編)立山カルデラ自然環境基礎調査報告書、pp.45-53. 富山県生活環境部自然保護課.
- 富山県生活環境文化部自然保護課、2012. 富山県の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブックとやま2012—、451pp. 富山県生活環境文化部自然保護課.
- 山口英夫・櫛田俊明、1998. メススジゲンゴロウ(7)記録と国内分布 補遺2. 越虫、(27) : 27-36.
- 山口英夫・惣名 実・湯浅純孝、1995. 第3章 富山県の水生昆虫. 富山県水生昆虫研究会(編)富山県の水生生物、pp.71-148. 富山県生活環境部自然保護課.
- 安池 恭、2017. メススジゲンゴロウ乗鞍高原からの記録. 月刊むし、(552) : 60.
- (財)国立公園協会、1994. 3水象・水質. 富山県生活環境部自然保護課(編)立山カルデラ自然環境基礎調査報告書、pp.1-34. 富山県生活環境部自然保護課.

要旨

立山カルデラ内の刈込池にて魚影らしきものを見たという情報が得られた。これまで同地で魚類は確認されておらず、何らかの要因で魚類が生息し始めたとすれば、同地に生息するメススジゲンゴロウへの悪影響が懸念される。そのため、2015年9月8日、メススジゲンゴロウの現況を把握するべく調査を行った。2名で60分間、タモ網を使用した掬い採りを行い、得られたメススジゲンゴロウを記録した。メススジゲンゴロウは成虫75個体を確認した。その後も魚類が確認されていないことから、現在もメススジゲンゴロウが生息するにあたっての良好な環境は維持されていると考えられる。今後も魚類の安易な放流を行わないよう注意が必要である。